

EDU300 教育社会学

3年 3,4クォーター

担当教員 羽田野 慶子

授業形態 演習

アクティブ・ラーニング 該当しない

単位数 2

曜日・時限 水曜日・2時限

授業概要

教育社会学とは、社会におけるあらゆる教育現象を社会的に分析する学問である。教育とは学校教育のみにとどまらず、社会教育、家庭教育、地域教育、職業教育、メディアを通じた教育など、あらゆる分野において、文化の伝達や人間の発達を促進し社会の成員を形成する営みの総体である。

この授業では、教育と社会との関係、学校教育の社会的機能、教育を通じた社会の再生産と変容、さまざまな教育問題などについて、教育社会学のアプローチによってどのように捉えられるか、またそのような方法を通じた事実認識をもとに、これからの教育と社会をどのように展望するか、文献講読とディスカッションを通じて検討する。

具体的には、社会化、階層・階級、ジェンダー、生徒文化、スポーツ、メディア、逸脱行動、マイノリティと教育、高等教育などのトピックを取り上げ、それぞれのテーマに関わる概説的なテキスト・論文を購読し、受講生の報告をもとに解説する。自らの教育経験と照らし合わせながら、教育社会学の視点からそれらを批判的に捉え直したレポートを作成し、最終発表を行うとともに、受講生間で相互にコメントすることにより、教育と社会に関する基礎的な社会学理論の習得し、それらを応用した批判的思考力を養うことを目指す。

到達目標

- (1) 教育に関する社会学理論について幅広く見識を深め、当為学ではなく事実学として客観的事実にもとづく教育社会学の視点を身に付ける。
- (2) 社会的見地から自分の教育経験について考え、個人的経験と広い社会との関連性について批判的に考える。
- (3) 教育社会学の方法論を用いて特定のテーマに沿った教育事象に関するレポートを作成し、発表する。

先修科目

生涯学習概論

教科書・参考資料等

教科書：

- (1) 酒井朗ほか、2012、『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房。
- (2) 荻谷剛彦ほか、2010、『教育の社会学 新版』有斐閣。
- (3) 天野郁夫ほか、1998、『教育社会学 改訂版』放送大学教育振興会。
- (4) 柴野昌山ほか、1992、『教育社会学』有斐閣。

参考文献：

- (1) アンソニー・ギデンズ、2009、『社会学 第五版』松尾精文ほか訳、而立書房。
- (2) ピエール・ブルデュー、1990、『ディスタンクシオン』I・II、石井 洋二郎訳、藤原書店。
- (3) カラベル&ハルゼー、1980、『教育と社会変動』上・下、潮木守一ほか訳、東京大学出版会。
- (4) マーチン・トロウ、1976、『高学歴社会の大学』天野郁夫ほか訳、東京大学出版会。
- (5) 木村涼子編、2009、『ジェンダーと教育』（リーディングス日本の教育と社会⑩）、日本図書センター。
- (6) 西島央編著、2006、『部活動 その現状とこれからのあり方』学事出版。

授業の方法

この授業は演習方式で行う（使用言語は日本語）。受講生は各回のテーマに沿って指定されたテキストを読み、テキストの概要とコメントを付したレジュメを作成する。レジュメに沿ってその回を担当する受講生がテキストの内容を報告した後、教員が補足説明を行う。内容に関わるディスカッション・テーマを定め、小グループに分かれて話し合いを行う。

成績評価

各回ごとに担当者を定める文献レジュメの作成と報告、小グループでのディスカッション、最終レポートの作成と発表を総合して評価する。

成績

40%	文献レジュメの作成と報告
20%	ディスカッションへの参加状況
40%	最終レポート

授業スケジュール

第1回：イントロダクション，教育社会学とはどんな学問か

教育社会学の学問としての成り立ちについて，Educational Sociology の時代から Sociology of Education へと変化を遂げたこと，社会学をはじめ歴史学，文化人類学等のディシプリンを横断的に用いる柔軟で学際的な「事実学」としての学問であることを解説する。

第2回：社会化をどう捉えるか

教育社会学の主要概念のひとつである「社会化」について，パーソンズの構造 - 機能主義による子どもの社会化の捉え方を概観し，理論の時代的制約とその後の批判について理解する。

第3回：学校の社会的機能

学校教育が社会において果たしている「社会化」，「選抜・配分」，「正当化」の3つの機能について理解し，学校が社会の再生産を担っている現実を把握した上で，学校が果たすべき役割について検討する。

第4回：階級・階層と教育

教育を通じた階級・階層の再生産／社会移動のメカニズムについて，対応理論（ボウルズ & ギンタス），葛藤理論（コリンズ），文化的再生産（ブルデュー）らの理論を用いて説明する。

第5回：教師-生徒関係，クラスルーム研究

学校教育におけるミクロな社会集団・対人関係の場である教室での教師 - 生徒関係および生徒間の相互行為に着目し，教師のストラテジーや教室秩序の構成に関する質的研究の成果を紹介する。

第6回：ジェンダーと教育

教育研究において不可視とされてきた「女子」の存在に焦点を当て，性別（ジェンダー）にもとづく格差や処遇の違いが，平等であるはずの教育を通じて再生産されてきたことを示すジェンダー研究の成果を紹介する。

第7回：学校文化・生徒文化

学校における生徒文化と社会における若者文化の双方に目を向けながら，文化と階級・階層との関係，時代の変化に伴う若者文化の変遷，若者に向けられる社会の見方の時代を超えた共通点について検討する。

第8回：学校におけるスポーツ

学校におけるスポーツの位置づけとその機能について，日本の学校における部活動，アメリカのハイスクールにおけるスポーツ・エリート，イギリスのパブリックスクールにおけるチーム・スポーツなどを例に検討する。

第9回：子どもとメディア

発達する情報メディアを通じた子ども・若者の社会化の様相とコミュニケーションのあり方の変化を確認し，情報メディアのさらなる進展が社会にもたらす功罪について議論する。

第10回：教育問題と逸脱の社会学

社会問題としての教育問題という視点から、特定の事象が「教育問題」として立ち上がるメカニズムとその効果について確認し、緊張理論、コントロール理論、ラベリング理論など、逸脱現象を説明する社会理論の妥当性を検討する。

第11回：マイノリティと教育

社会的排除／包摂の概念を理解し、学校を始めとするさまざまな教育現場における多様なマイノリティ（外国人、性的マイノリティ、障がい者など）がどのような処遇を受けてきたかを学び、共生のための教育のあり方を検討する。

第12回：教育から労働市場へ

学校／教育から労働市場へのトランジションに関わる諸問題として、日本の雇用慣行のゆらぎと非正規雇用の拡大などの現状を把握し、大学を含む学校教育に求められる職業教育・キャリア教育のあり方とその是非について検討する。

第13回：高等教育の大衆化

エリート教育機関であった大学は社会の発展とともに大衆化し、その社会的機能だけでなく大学で伝達される知識・技能の質、育成される人材の価値も大きく変容を遂げていることをふまえて、高等教育機関で学ぶ意義について意見交換する。

第14回：最終レポートの作成・発表（1）

これまでの授業でとりあげたテーマから一つを選び、自分の教育経験をふりかえり批判的に検討するレポートを作成する。

第15回：最終レポートの作成・発表（2）

受講生が作成した最終レポートを小グループごとに発表し、相互にコメントをし意見交換を行う。

事前・事後学習

- ・予習：参考図書の該当する章を一読し、疑問点を確認した上で、ディスカッションの論点を準備する（2時間程度）。
- ・復習：授業内容を復習し、レポート作成に向けて内容を整理する（1時間程度）。